

岐阜県嚥下障害研究会

モグモグ通信

No. 17 (2011. 2 発行)

3月5日の成人勉強会では症例発表とカニューレについてのミニ講演を計画しています。



発行所:岐阜県嚥下障害研究会
事務局:木沢記念病院 言語室

これから私たちが
やらねばならないこと

第 13 回学術講演会
大会長 岡村 秀人

(西美濃厚生病院 理学療法士)



平成 22 年 11 月 28 日に大垣市情報工房（大垣市）にて第 13 回岐阜県嚥下障害研究会学術講演会・総会が開催いたしました。当日は、晴天に恵まれ、岐阜県内外よりスタッフを含めると 200 名を超える参加者を頂きありがとうございました。今回の学術集会では、『今、私にできること』として、今までにない統一テーマを設定しました。プログラムとしては、午前中を特別講演、午後からはシンポジウムを行い、昼間には歯科衛生士の皆様による口腔ケア体験コーナーを行いました。

特別講演には山梨リハビリテーション病院から長谷川和子先生（言語聴覚士）を招くことができ、講演内容としては、対象となる方をみるにあたり、まずはストーリーを共有するとして、「どのようにして現在に至ったか」という見落としがちな点についてご教授いただき、それに対してどのようにして具体的に対応すべきかを整理させていただきました。植田先生の「万が一理論」を基に、胃ろうが増えている現状とそれによる廃用症候群の併発があることを再確認させていただきました。また、評価の重要性を細かく整理していただき、これらから、私たちがこれからすべきことは、確実・正確な評価を基にして、如何に良い関わりや、訓練につなげていけるかが課題になったかと思いません。質疑応答では活発なディスカッションができ、

参加者の興味の高さを再確認する機会にもなりました。

シンポジウムでは、愛知県歯科医師会から加藤友久先生（歯科医師）、岐阜県言語聴覚士会から鈴木勝先生（言語聴覚士）、岐阜県の摂食嚥下障害認定看護師として植木敏子先生（看護師）、療育（教育）関連として大垣特別支援学校から杉山吉博先生（教諭）を招き、大会テーマ「今私にできること」に対して各専門領域の特性を得た報告を頂きました。各先生方にはサブテーマを「生活支援に対するリハビリテーション」とさせて頂き、報告内容に苦心したというご意見も事前には頂いておりましたが、報告内容をお伺いする中ではかなり今後の現場に対して実効性のある内容であったのではないかと思います。最後のディスカッションにあたっては、フロアー（参加者）から多くのご意見を頂き、各専門職種ならではの検討ができたのではないかと考えます。

また、恒例とはなりましたが、昼間には岐阜県歯科衛生士会から西濃地区の歯科衛生士を中心として、口腔ケア体験を行っていただきましたが、各施設から参加していただき、参加者の方々の真剣な眼差しが非常に印象的でした。この口腔ケア体験コーナーは今回を以て終了となりますが、これからも参加していただいた方が、同職場の方々への技術伝承とともに、近隣の施設の方々へ知識と技術を広めていただけることを期待します。

最後に、全体を通して各講師の先生方から頂きました情報を基に、まずは今、現場で行っていることに対して再確認していただき、「気づき」が一つでもあればと思います。現場に戻られた参加者の方々の摂食嚥下について関心を高められる場の提供を今後も予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

初級課程 レポート

日時：平成22年8月8日（日）
場所：木沢記念病院 中部療護センター
講師：加藤孝憲氏 川口千治氏 豊島義哉氏
（副会長）（理事）（会長）

初級課程講習会に参加して

豊川青山病院（愛知県）
言語聴覚士 松山 美江

平成22年3月の第3回成人研修会に参加させていただきましたことをご縁に、研究会の会員になりました。8月の初級課程講習会では基礎的な理論から体験実習まであり、大変有意義なお話を伺うことができました。ありがとうございました。

加藤先生の講義では、「老化に伴う摂食・嚥下機能低下となる要因の一つには、無症候性脳梗塞の存在がある」ということでした。こういった症状は、常日頃から患者さんの様子をしっかりと観察しなければ把握できません。また、豊島先生からは「嚥下リハが不快で、嫌悪体験になっていませんか？認知症の患者さんは、食感がなく味気ないものを口にしなければならず、これは嫌がらせになります」と言われ、この言葉に目からウロコで

した。食思不振の患者さんには、スタッフ一同が悩まされますが、患者さんも食べることが苦痛かもしれないという多面的な視点でリハビリを行っていきたくと改めて痛感しました。さらに、歯科衛生士の川口先生は「自分の口の中がきれいにできない人は、他の人の口の中はきれいにできません」と講義されました。そこで、如何に自分の歯が磨けていないかを体験するため、歯をピンク色に“染め出し”、歯ブラシをペングリップで持ち、スクラッピング法で15～20分程かけて磨きました。患者さんの夜間の不顕性誤嚥を防ぐためなどのテクニックをマスターできうれしく思いました。

お土産には、K・スプーンならぬ、K・memorial スプーン？をいただきました。早速、翌日からゼリーをスライス状にする時に使っています。

この初級課程講習会での勉強をきっかけに、患者さんの立場に立ったより良い嚥下リハができるように日々研鑽して参ります。

成人勉強会 レポート

日時：平成22年9月26日（日）
場所：介護老人保健施設 サンバレーかかみ野
内容：「おいしく食べる喜びを～高齢者ソフト食の調理～」
企画：阿部 忍氏（研究会理事 サンバレーかかみ野・言語聴覚士）
講師：曳田のぞみ氏（サンバレーかかみ野・管理栄養士）
原川美穂氏（エムサービス（株）・管理栄養士）

「わー！おいしそう」

介護老人保健施設
中津川ナーシングピア

管理栄養士 各務 千鶴子

「ソフトこんにゃくのみそかけ」にびっくり、フランス料理のような盛り付けに“おいしそう”

とにっこり、ソフト食はさらに進化していました。

9月26日（日）、介護老人保健施設サンバレーかかみ野での勉強会は講義、調理実習と試食の二部構成で頭脳も胃袋も満足の内容でした。

多職種の中なかでも管理栄養士とSTの連携がはかられ、全職員が何れかに所属する委員会活動のひとつである栄養管理委員会の活動など、施設全体が利用者様に「おいしく食べられる喜びを感じて欲しい」という方向で一貫した体制を敷いておられました。

また、ソフト食を①下で押しつぶせる固さ②食塊を成している③滑りがよく飲み込みやすいと定義されています。咀嚼機能が低下した刻み食の方から食塊形成が困難な方や喉頭への送り込みに障害がある方の一部まで幅広く適応しておられました。

見上げると大きな天窓から陽がさす開放的な食堂で実習と試食をさせて頂きました。委託業者が施設の意向に全力で応えようと日々創意工夫をされていました。これまでの実績から、食材により加えるだしや凝固剤の比率はマニュアル化されています。市販のソフト食素材、用途別に凝固剤を2種類、粥用（だ液アミラーゼによる咀嚼時の離

水防止）にスベラカーズと揃えておられました。ふんわりとして飲み込みやすく安全でおいしいのはもちろんですが、ガスバーナーで魚型のソフト食に焦げ目をつけ、木の葉、ハート、星、さいの目、球型などの型抜きをしたり、細長く成型したソフト食を芯にして海苔巻きのようにしたりなど、調理する方が楽しく作っているからこそ、“おいしそう”と食欲をそそる盛りつけになるのだなと感じました。

サンバレーかかみ野の皆様のチームワークの良さと仕事に対する情熱を感じ、一步ずつ近づきたいと思い帰途に着きました。ありがとうございました。

アンケートより

「分かりやすさ」

非常にわかりやすい	67.6%
わかりやすい	24.4%
普通	8.1%
ややわかりにくい	0%
わかりにくい	0%

「満足度」

非常に満足している	54.1%
満足している	37.8%
普通	8.1%
やや不満足	0%
不満足	0%



サンバレーかかみ野とエームサービスの皆さん

第13回学術講演会・総会の風景



開催日：平成22年11月28日(日)

会場：大垣市情報工房

特別講演：「今、私にできること」

講師：長谷川和子氏

山梨リハビリテーション病院 言語聴覚士

企画：嚥下障害補助食品&口腔ケア用品の配布・展示

嚥下障害関連書籍の販売

歯科衛生士による口腔ケア体験コーナー

シンポジウム：「今、私にできること～生活支援に対する

摂食嚥下リハビリテーションの可能性～」

座長：岡村秀人氏

シンポジスト：加藤友久氏、鈴木勝氏、植木敏子氏、杉山吉博氏



▲シンポジストの皆さん



▲恒例となった口腔ケア体験コーナー



スタッフ一同です⇒

「来年は、多治見市でお会いしましょう」



一 編集後記 一 第13回学術講演会岐阜・西濃大会を盛会の中、終えることができました。これも会員ならびに関係者の皆様の摂食・嚥下障害への関心の高さの賜物と感謝申し上げます。なお、恒例となりました口腔ケア体験コーナーは今回で終了となります。ご協力をいただきました岐阜県歯科衛生士会ならびに岐阜県5圏域の歯科衛生士の皆様、誠にありがとうございました。(T、Y)